だめ押しの３点目を決めた中田（中央）に駆け寄る選手たち。前半は攻めあぐむもなんとか勝ち点「３」をものにした
（撮影・野澤俊介）

JR東日本カップ　2003　第77回関東大学サッカーリーグ戦（後期）１部リーグ　第11節

KOMAZAWA × AKIA

駒澤大学３－１亜細亜大学

貴重な勝ち点「３」！！
リーグ終盤へ向けはずみつける

前半攻めあぐむもなんとか競り勝ち!!

勝たなければならない試合。この日の試合はそう言えた。勝ち点２差で筑波大が２位に控えている。前節中大相手に、後期２度目の引き分け。もう下位のチームから勝ち点を取りこぼすことはできない。ここはどうしても勝ち点「３」が欲しかった。

前半はプレー面でも精神面でも駒大サッカーとは言えなかった。15分、**橋本**のクロスボールを**中田**が頭で合わせ先制。このゴールで波に乗るかと思われた駒大だが、逆に試合の主導権は亜大に。ついには31分、**亜大・奥山**のシュートをいったんは**牧野**がセーブするもこぼれたボールを再び**奥山**に押し込まれ、同点とされてしまう。「前半は相手よりも出足が遅かったし、戦う気持ちが全然出ていなかったんで、最悪な試合内容だった」（**中田**）。気持ちで負けてしまうのは、駒大サッカー、いや全ての競技において決してあってはならないことだ。

しかし、後半に入り駒大のプレーが変わる。きっかけは50分に起こった。**巻**が接触プレーで負傷退場。「**巻**が怪我して、絶対に負けられないという気持ちになった」（**原**）。仲間の負傷。チーム全体に「試合に勝つ」という気持ちが入った。駒大サッカーが相手を追い込んでいく。53分、相手のこぼれ球を**原**が絶妙なタイミングでゴール。待望の追加点がうまれた。

守備陣の守りも前半とは見違えるほど良くなっていく。亜大がゴールに攻め入ってきても、駒大の壁は大きかった。守備陣が一丸となり、相手選手をゴールに近づけない。ディフェンダー**筑城**のカットが光っていた。

惜しくもゴールにはならなかったが、**赤嶺**や**中後**も惜しいシュートを放った。ゴールへの思い。勝ちへの執着。この試合、勝利を確実なものにした終了間際のゴールは「後半